

平成30（2018）年度大腸肛門病専門医試験出題問題

各基本診療科共通問題

大腸の解剖について正しいのはどれか。

- a. 盲腸と上行結腸の境界は回盲弁の下唇である。
- b. 上部直腸(Ra)の下端は第 1 Houston 弁とほぼ一致する。
- c. 下行結腸と S 状結腸の境界は左腸骨稜の高さに一致する。
- d. 下部直腸(Rb)の下端は外肛門括約筋付着部下縁に一致する。
- e. 直腸 S 状部(RS)の下端は S2(第 2 仙椎)上縁の高さまでである。

正解： c

[解説]

- a. ×：盲腸と上行結腸の境界は回盲弁の上唇である
- b. ×：上部直腸 (Ra)は第 2 仙椎 (S2)下縁から腹膜反転部までで、大腸内視鏡の第 2 Houston 弁とほぼ一致する。
- c. ○：下行結腸と S 状結腸は間膜の有無を指標として左腸骨稜の高さに一致する。
- d. ×：下部直腸 (Rb)は腹膜反転部から恥骨直腸筋付着部上縁までである。
- e. ×：直腸 S 状部 (RS)は岬角から第 2 仙椎 (S2)下縁の高さまでである。

[出典]

大腸・肛門外科の要点と盲点 第 3 版（文光堂） 2014 年

専門問題：内科・放射線科・病理科・その他（I）

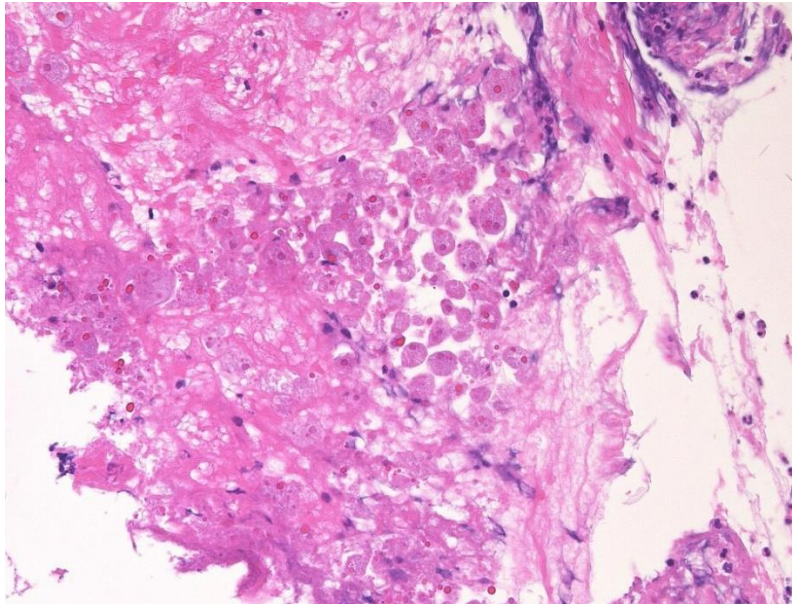
38 歳の男性。軟便と排便時出血を主訴に来院した。直腸の下部消化管内視鏡写真（図 1）と、生検の HE（Hematoxylin-Eosin）染色像（図 2）を示す。適切な治療法はどれか。

- a. アザチオプリン
- b. メサラジン坐薬
- c. メトロニダゾール
- d. インフリキシマブ
- e. ステロイド注腸薬

図 1)



図 2)



正解： c

[解説]

赤痢アメーバ感染症の設問である。特に潰瘍性大腸炎との鑑別が重要であり、周囲に隆起を呈するいわゆるタコイボ様潰瘍・びらんは典型所見とされている。本症例では特徴的な内視鏡所見を呈しており、病理では虫体が確認できる。治療にはメトロニダゾールが用いられる。

[出典]

感染性腸炎 A to Z

専門問題：外科（Ⅱa）

潰瘍性大腸炎の治療について誤っているのはどれか。

- a. 術式には一期的手術と分割手術がある。
- b. 中毒性巨大結腸症は絶対的手術適応である。
- c. 術後回腸囊炎では回腸人工肛門造設後に抗菌薬を投与する。
- d. 大腸全摘、回腸囊肛門管吻合術は、術後に発癌のリスクが残る。
- e. 内科的治療における重症の副作用発現は相対的手術適応である。

正解： c

[解説]

- a. 文章の通りである。
- b. 中毒性巨大結腸症、穿孔、大出血、癌の合併などは絶対的手術適応である。
- c. 術後の回腸囊炎は抗菌薬の投与で軽快することが多い。
- d. 大腸全摘、回腸囊肛門管吻合術は、残存粘膜の発癌リスクや潰瘍性大腸炎の再燃などのリスクが残る。
- e. ステロイドの副作用症例、腸管外合併症などは相対的手術適応である。

[出典]

標準外科学 医学書院

専門問題：肛門科（Ⅱb）

クローン病に合併する肛門病変について誤っているのはどれか。2つ選べ。

- a. cavitating ulcer が特徴的である。
- b. クローン病診断基準の主要所見に含まれる。
- c. 高度直腸狭窄例は人工肛門造設の適応となる。
- d. 生物学的製剤の導入ののち、膿瘍ドレナージを行う。
- e. advancement flap 法は直腸腔瘻に対して有効である。

正解： b, d

[解説]

- a. Hugh らの分類では primary lesion として浮腫状皮垂、cavitating ulcer などが挙げられる。
- b. 特徴的な胃・十二指腸病変などとともに副所見に挙げられている。
- c. 高度の狭窄例、seton 法ドレナージ無効例、癌化例では人工肛門造設の適応となる。
- d. 生物学的製剤投与により膿瘍が悪化する可能性があるため、必ずドレナージ後に投与を行う。
- e. 直腸腔瘻の手術法の一つである。

[出典]

「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」（鈴木班）平成 28 年度総括・分担研究報告書